

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 幸千中 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロ セス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に考え、自らの力で課題解決を図ることができる生徒の育成 生徒に確かな学力を身に付けさせるための授業づくりと指導力の向上 	★	新規	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に、主体的に学びに向かおうとする態度を育む。 生徒に、家庭学習や自主的な学習に積極的に取り組もうとする態度を育む。 教員の、学びをファシリテートする力・単元を構想する力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が課題意識をもって学習に取り組めるように、問いを創る授業（問題解決的な学習）を基盤とした授業づくりに取り組む。 生徒の実態を的確に分析し、身に付けさせたい力を明確にした単元構想を立て、それに基づいた指導に取り組む。 家庭学習の定着を図るための工夫に取り組む。 指導と評価の一体化を意識した実践に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の変化に応じた柔軟な授業の実践（教員アンケート関連項目において肯定的評価）90%以上 生徒の学びの状況（生徒アンケート関連項目において肯定的評価）85%以上 全国学力調査/標準学力調査における正答率40%未満の割合 30%未満 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の柔軟な授業実践についての肯定的評価は91.7%であった。 生徒の学びの状況の肯定的評価は86%であった。 全国学力調査・標準学力調査における正答率40%未満の割合、30%未満の教科は、3年1/2教科、2年1/5教科、1年4/5教科であった。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、問題解決的な授業を基盤とし、生徒が思考する授業、主体的に学習に取り組める授業づくりを行う。 各種学力調査の分析を基に、幸千中学校区授業づくりポートフォリオを全教員で作成し、授業改善を行う。 基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせるための授業における活動や家庭学習の取組を継続して実施する。 					
3	<ul style="list-style-type: none"> 自尊感情、自己肯定感、自己効力感の高い生徒の育成 一人一人の多様な幸せ、また社会全体の幸せでもあるWell-beingの理念の実現 		継続	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自分で決めて実行し成功する体験を通して、生徒に自信を育む。 生徒が自らボランティア活動を企画・実施することを通して、生徒に社会貢献の素晴らしさや地域への愛着を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ライフスキルプログラムに計画的に取り組む。また取組内容を全体に周知する。 各種検定に取り組む。（検定の意義および実施計画・結果等を周知する。） ボランティア活動の企画（月に1回）と実施及び活動成果の分析と結果の周知を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート「自分で目標を決め、学びや学校行事等に取り組んでいる」85%以上 生徒アンケート「ボランティア活動に積極的に参加している」60%以上 生徒アンケート「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分で目標を決め、学びや学校行事に取り組んでいる」生徒の肯定的評価は90%であった。 「ボランティア活動に積極的に参加している」生徒の肯定的評価は54%であった。 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」生徒の肯定的評価は86%であった。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に学校生活にある課題に気付かせ、課題解決に向けた主体的な取組を実施させる。そのために各種委員会活動、係活動を充実させる。 ボランティア活動において、積極的に校外に出向き、人との関わりややりがいを一層感じられる内容に取り組ませる。 					
3	<ul style="list-style-type: none"> 生涯にわたって運動に親しむとともに、健康の保持増進と体力の向上を目指す生徒の育成 		継続	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に、主体的に体力の向上に取り組む態度を育む。 生徒に、運動の楽しさを実感させ、健康を大切にすることを育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業で、筋力・基礎体力の向上に係る種目を継続して実施する。 授業の中で協働的な学習の場面を設定し、他者との協力や励ましの中で自己肯定感が高まる取組を行う。 授業等を活用し、生徒に生活習慣の改善や食育の推進の機会を設ける。 試験期間を利用し、スマートフォン等メディア個人使用ゼロ時間に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力・運動能力調査における、筋力・筋持久力の項目を全国平均値以上。 生徒アンケートにおける体育的活動の場面での協働的な活動に対する肯定的評価90%以上 スマートフォン、タブレット等の個人利用時間〔平日2時間以内〕生徒アンケートにおいて達成状況 40%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 筋力・筋持久力の項目について、令和6年度の全国平均値と比べると、多くの項目で全国平均値以上であったが、女子の上体起こしは-2.56ポイントであった。 生徒アンケートにおける体育的活動の場面での共同的な活動に関する肯定的評価は、91%であった。 スマートフォン、タブレット等の個人利用時間〔平日2時間以内〕生徒アンケートにおいて達成状況は23.4%であった。 	3	2	<ul style="list-style-type: none"> 体育の補強運動で、上体起こしを継続的に実施し、基礎体力の向上を図る。 授業の中で、グループ活動など、他者と関わる場面を設定し、教え合いを通して生徒が主体的に学ぶ授業づくりを行う。 生活習慣チェックを使用したり、保健だよりを活用したりしながら、生徒自身がスマートフォンの使い方について考えていく取組を行う。 					

1	<ul style="list-style-type: none">・学校と地域が連携、協働し、子どもたちの成長を支える環境づくり		新規	<ul style="list-style-type: none">・地域の多様な関係者の学校教育への参画を推進する。・地域の特色を生かした教育活動の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none">・CSを基盤とし、地域資源を活用した学習活動や行事等に取り組む。・小学校と連携した活動や地域行事への参加など、地域と関わる活動に積極的に取り組む。・保護者や地域にCSの活動を積極的に発信する。	<ul style="list-style-type: none">・地域資源を活用した教育活動の実施（年間実施回数）3回以上・小学校との活動や地域行事への参加回数（年間実施回数）5回以上・保護者、地域への情報発信（年間実施回数）3回以上・地域の人から学んだり、教わったりしたことは、自分の将来に役立つと感じた（アンケートでの肯定的評価）90%以上	<ul style="list-style-type: none">・9月末時点において、地域資源を活用した教育活動を9回、小学校との活動や地域行事への参加を5回行った。・地域の人から学んだり、教わったりしたことは、自分の将来に役立つと感じた生徒の割合は91.2%であった。	3	3	<ul style="list-style-type: none">・引き続き、地域資源を活用した教育活動や、小学校との活動、地域行事に参加しての活動を計画・実施する。・地域との関わりなどについて、ホームページや学年通信などで定期的に発信する。					
4	<ul style="list-style-type: none">・教職員がやりがいを持ち、元気、笑顔で勤務できる環境の充実・教職員が個性を発揮しながら、生徒とともに自ら挑戦し続けることができる環境づくり		継続	<ul style="list-style-type: none">・教職員どうしの対話、コミュニケーションを深める。・組織マネジメントを確立する。	<ul style="list-style-type: none">・業績評価（自己申告）書で、教職員一人一人がやりがいの持てる目標を設定する。・チーム幸千として協働的で支え合える組織体制を構築する。・カリキュラムマネジメントを意識し、生徒の資質・能力を育み、教職員一人一人の持ち味を生かした持続可能な教育課程を編成する。	<ul style="list-style-type: none">・教科の面白さを感じ、教科指導に意欲的に取り組んでいる教員（アンケートでの肯定的評価）90%以上・やりがいを感じている教員（アンケートでの肯定的評価）90%以上・授業づくりを行う時間が確保できている教員（アンケートでの肯定的評価）85%以上・個性が認められていると感じる教員（アンケートでの肯定的評価）90%以上	<ul style="list-style-type: none">・「教科の面白さを実感している」教員の割合は100%であった。・「仕事にやりがいを感じている」教員の割合は93.3%であった。・「『子どもが自ら学ぶ』授業づくりにあてる時間がある」教員の割合は83.3%であった。・「本音を気兼ねなく発言でき、自分の個性が認められているという実感がある」教員の割合は93.3%であった。	3	4	<ul style="list-style-type: none">・教職員が意欲を持って勤務できる環境を維持・継続するために、組織づくり、業務改善、持続可能な取組を、学校全体で考えながら、更に充実させていく。・教職員一人一人が子どもたちを高めるため、自分自身を高めるためにやりたいことや取り組んでみたいと考えることに対して、積極的に後押しできる体制を充実させるとともに、人的・物的環境の充実に努めていく。					

「プロセス評価の評価基準」

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

「達成評価の評価基準」

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

「総合評価の評価基準」

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。